

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

水道部上水道課

水道部長 村瀬 浩之

| 整理No | 事務事業名 | 3か 年実 施計 画 | 事業の評価・課題 | | 今後の事業の方向性 | |
|--------|---|---------------------|----------|--|-----------|---|
| | | | 自己 評価 | 評価内容 | 方向性 | 内容 |
| 36-001 | 安定供給事業 | あり | B | 土地区画整理事業や宅地開発、集合住宅の立地など、新たな需要に対応する必要がある地域における配水管布設については、将来を見据えた管種・口径を選定し、安定した水道水を供給することができた。 | 改善 推進 | 配水管のブロック化については、乙川中部土地区画整理事業の進捗に合わせて実施する必要があるため、引き続き事業者と綿密に調整していく。高度経済成長期に整備された施設や管路が更新時期を迎えていることから、持続可能な健全な経営のもと、水道施設の適切な維持管理と計画的な更新及び再構築を進めていく。なお、施設・配水管整備計画等については、令和2年度中の策定を予定している。 |
| 36-002 | 地震対策事業 | あり | B | 大口径配水管の改良工事については、砂谷配水池の高架化に併せた配水管の整備及び県補助金の交付を受けての老朽管の更新を行い、計画通り実施することができた。防災拠点施設等への応急給水栓については、初期に整備した地下式の施設を地上式に改良する工事を実施し、被災時の利便性向上を図った。 | 拡充 推進 | 大規模地震による被害が想定されており、被災時のライフライン確保は市民の関心も極めて高い。耐震管は、東日本大震災でもほとんど被害が発生しておらず、その耐震性能は高い評価を得ており、現在策定中の施設・配水管整備計画等をもとに、計画的に布設替えを進めていく。 |
| 36-004 | 運営基盤強化事業 | あり | B | お客様サービスの向上や経営基盤強化のため、窓口業務・検針・料金徴収等の包括的な民間委託を継続して実施し、毎月の催告や給水停止などの収納強化を図った。現年での収納率は昨年度より微減となったものの、高い収納率を保つことができている。 | 拡充 推進 | 給水収益は、長期的には人口の減少や節水型機器の普及により、減少すると予測されることから、継続して収納対策の強化や経費の縮減など効率的な運営に努めていく。経営戦略や新水道ビジョンを策定し、将来の展望を示すことにより水道事業の安定化を図っていく。また、口座割引制度の廃止についても、具体的な検討を進める。 |
| 課等長 | 1次評価(元年度の総括評価) | | | | | |
| B | 安定供給事業については、下水道や臨港道路など他事業及び民間による分譲地の整備等に合わせ、約1,600mの配水管を布設した。給配水管の漏水修繕工事などと併せ、地域への水道水の安定供給の向上を図った。 近い将来発生が予想される巨大地震への備えとして実施している大口径配水管の改良工事については、これまで県補助金を受けて進めてきた口径500mmの配水管について、更新・供用を開始し、目標の耐震化率を達成した。防災拠点施設等への応急給水栓整備については、平成30年度までに計画49か所全ての整備が完了している。 運営基盤強化事業については、水道料金請求の催促の頻度を一部上げるなど、収納対策の強化もあり、年度末時点における収納率は高い数値を維持しており、平成30年度の1年後における収納率は99.9%以上となっている。 | | | | | |
| 部等長 | 2次評価(元年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項) | | | | | |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・職員の異動や経験年数の不足、実際に修繕工事を担う市内水道業者の確保が困難な場合があるなど、災害時も含めた緊急時の対応力の確保が喫緊の課題である。実際の被害を踏まえた訓練を多く実施し、緊急時に備えること。 ・単年での経営収支の良し悪しだけでなく、老朽化していく施設の計画的な更新など、将来を見据えた整備、体制の構築、料金設定の検討などに具体的に取り組むこと。 | | | | | |